

コ ー ス	法医学・法医学実習 (Forensic Medicine Lecture & Lab class)		
学年・期・単位	第1学年・後期・2単位	科目担当責任者	山田 良広 (社会歯科学講座 法医学分野・教授)
オフィスアワー	毎週水曜日17:00~18:00 (第2研究棟4階法医学研究室)	メールアドレス	yamachan@kdcnet.ac.jp
一般目標 (GIO)	<p>歯科医師の基礎的教養である法医学・歯科法医学の知識の習得を目標とし、具体的には脳死と心臓死の違いなど死の定義について自分の意見を持つこと、死因論の理解、歯科医師が身元不明死体の個人識別を行う際の方法と考え方、医療過誤等への理解と予防法など、歯科医師として日常の臨床以外で社会に貢献できることを理解する。実習では、実際に警察の鑑識で行われている作業を経験し、歯科医師として法医学実務に携わる可能性を理解し、生前歯科記録と死体の口腔内所見との比較による鑑定方法などを理解する。</p>		

講義ユニット	一般目標 (GIO)
1. 法医学総論	法医学と歯科法医学の定義を理解し、その目的が法医学では死因の究明であり、歯科法医学は個人識別であることを理解する。そのうえで大規模災害など身元不明死体が多数発生する場合には、法医学以上に歯科法医学が必要とされる理由を再認識する。検屍作業における歯科医師の役割、さらに歯科医師に関する法規について理解する。
2. 死の判定	法医学解剖の対象となる異状死体を理解し、歯科医師として、脳死と心臓死のどちらをヒトの死とするか、自分なりに理解する。
3. 死体現象1	死体は通常環境では、乾燥から白骨化と変化する。この過程を早期・後期死体現象として理解する。またそれらの死体現象を生じない永久死体現象を理解する。AI (autopsy imaging) の概念を理解する。
4. 死体現象2	死体現象は死後経過時間の推定に重要な情報であることを理解する。また、歯に見られる代表的な死体現象であるピンク歯についてその生成機序を理解する。
5. 死因論1	代表的な死因である窒息の概念と死体所見を理解する。
6. 死因論2	代表的な死因である損傷の概念と死体所見を理解する。
7. 個人識別	大規模災害児の身元確認と個人識別手段としての年齢推定・血液型・DNA 鑑定さらに舌癒着症を理解する。
8. ふり返り総合学習	コース全体を振り返り、理解を深める。

教科書〈講義〉		
書名	著者名等	発行所
A 法医学第6版 (補訂)	山本勝一 編	医歯薬出版

参考書〈講義〉		
書名	著者名等	発行所
エッセシャル法医学	高取健彦 編	医歯薬出版
歯の鑑定入門	神奈川県歯科医師会 編	医歯薬出版

評価法 (EV)
試験 (講義 (客観式) 60%、実習 (記述式) 30%)、レポート提出 (実習) (10%)、出席 (講義および実習、欠席の場合減点) による総合評価

授業計画〈講義〉						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
1	9/2	法医学総論	身元確認における歯科資料の重要性を説明できる。	A P9～28。ポイントを板書きする。資料を配布し、パワーポイントを使用して説明する。	山田良広	A-3-5)
2	総Ⅱ -(Ⅶ)-2-H-f					
3	9/9	死の判定	1. 異状死体について説明できる。 2. 個体死について自分の意見を説明できる。 3. 脳死を説明できる。 4. 生活反応を説明できる。	A P303～310。ポイントを板書きする。資料を配布し、パワーポイントを使用して説明する。	山田良広	A-2-3) D-2-(1)-1) D-4-(2)-3)
4	総Ⅰ -(Ⅳ)-1-V					
5	9/16	死体現象Ⅰ	1. 死体現象の意義を説明できる。 2. 早期死体現象を説明できる。 3. 後期(晩期)死体現象を説明できる。 4. 異常死体現象(永久死体)を説明できる。 5. AI(autopsy imaging)の概念を説明できる。	A P121～122。事例をパワーポイントを使用して説明する。	山田良広、 岩瀬博太郎 (招聘講師)	D-4-(4)-1) F-2-(5)-3)
6	必-14-A-a 総Ⅰ -(Ⅳ)-1-D					
7	9/30	死体現象Ⅱ	1. 死体現象と死後経過時間推定の関係を説明できる。 2. 歯の死体現象を説明できる。 3. 後期(晩期)死体現象を説明できる。 4. 異常死体現象(永久死体)を説明できる。	A P121～122。ポイントを板書きする。資料を配布し、パワーポイントを使用して説明する。	山田良広	F-2-(5)-3)
8	総Ⅰ -(Ⅳ)-1-D					
9	10/14	死因論Ⅰ	1. 窒息の定義を説明できる。 2. 窒息と呼吸不全を説明できる。 3. 窒息死体の所見を説明できる。	A P221～227。ポイントを板書きする。資料を配布し、パワーポイントを使用して説明する。	山田良広	F-2-(5)-2)
10	総Ⅰ -(Ⅳ)-1-D-a					
11	10/21	死因論Ⅱ	1. 損傷の定義を説明できる。 2. 損傷の検査を説明できる。 3. 損傷と死因を説明できる。	A P221～227。ポイントを板書きする。資料を配布し、パワーポイントを使用して説明する。	山田良広	F-2-(5)-2)
12	総Ⅰ -(Ⅳ)-1-D-a					
13	10/28	個人識別	大規模災害における歯科医師の役割を説明できる	A P9～28。パワーポイントを使用して説明する。	山田良広、 山本勝一 (招聘講師)	B-2-(3)-2)
14	総Ⅱ -(Ⅶ)-2-H-f					
15	11/4		個人識別におけるDNAの役割について説明できる。	A P183～186。事例をパワーポイントを使用して説明する。	大平 寛	D-1-(2)-2)
16	総Ⅰ -(Ⅰ)-1-B					
17	11/11		舌癒着症について説明できる。	A P221～227。事例をパワーポイントを使用して説明する。	山本伊佐夫	B-2-(2)-6)
18	総Ⅰ -(Ⅳ)-1-L					
19	(/)	ふり返り総合学習	講義全体に関して、質問を受けるとともに、再度振り返る。	パワーポイント、板書を使用して説明する。	山田良広	
20						

実習ユニット	一般目標 (GIO)
1. 個人識別1	法医学の基本的検査である血痕検査と DNA 検査を理解する。
2. 個人識別2	吸収試験による血液型の検査法とその有用性を理解する。指紋の分類を理解する。
3. 個人識別3	PCR 法を理解し、実際に経験する。デンタルチャートを理解する。
4. 個人識別4	電気泳動法を理解、実際に経験する。デンタルチャートを習得する。
5. 個人識別5	充填物の識別を経験する。事例から死体のデンタルチャートを習得する。

教科書〈実習〉		
書名	著者名等	発行所
C 法医学実習マニュアル	神奈川歯科大学法医学教室 編	教室扱い

参考書〈実習〉		
書名	著者名等	発行所
法医血清学的検査法マニュアル	岸 紘一郎 他編	金原出版
比較血液型学	鈴木正三 監修	裳華房

授業計画〈実習〉						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
1	11/18	個人識別1	血痕検査、DNA 資料採取ができる。	C P2~12。実験方法をパワーポイントを使用して説明し、ポイントを板書きする。	法医学分野教室員全員	B-1-(2)-1
2						総Ⅱ-(Ⅳ)-2-C
3	11/25	個人識別2	1. 吸収試験による血液型の検査ができる。 2. 指紋を分類し説明できる。	C P13~15。実験方法をパワーポイントを使用して説明し、ポイントを板書きする。	法医学分野教室員全員	B-1-(2)-2
4						総Ⅱ-(Ⅳ)-2-C
5	12/2	個人識別3	1.PCR 法の説明と実行ができる。 2. デンタルチャートの説明ができる。	C P16~21。実験方法をパワーポイントを使用して説明し、ポイントを板書きする。	法医学分野教室員全員	B-1-(2)-3
6						
7	12/9	個人識別4	1. 電気泳動法の説明と実行ができる。 2. デンタルチャートが書くことができる。	C P22~26。実験方法をパワーポイントを使用して説明し、ポイントを板書きする。	法医学分野教室員全員	B-1-(2)-4
8						総Ⅱ-(Ⅳ)-16-F
9	12/16	個人識別5	1. 充填物の識別、紫外線検査による天然歯と人工歯の識別ができる。 2. 死体のデンタルチャートが書くことができる。	C P27~34、P51~54。実験方法をパワーポイントを使用して説明し、ポイントを板書きする。	法医学分野教室員全員	F-1-(2)-6
10						総Ⅱ-(Ⅳ)-5-C 総Ⅱ-(Ⅶ)-2-H-f